

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE 総合性能評価システム（建築物環境性能評価システム）2016年版、4.0版（建築物環境性能評価システム）2016年版  
使用評価ソフト：CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西區花の木三丁目計画	階数	地下0F地上14F
建設地	名古屋市西區花の木三丁目1212番、1213番、1214番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	138人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年12月 予定	評価の実施日	2026年1月16日
敷地面積	693㎡	作成者	
建築面積	282㎡	確認日	2026年1月19日
延床面積	2,869㎡	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.0</b></p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア= 2.8</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 3.3</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 2.8</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア= 2.1</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア= 3.2</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 4.4</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 2.7</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 2.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>省エネルギー性に考慮し、地球環境負荷の低減に配慮した。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>T-2サッシの採用 F☆☆☆☆建材の採用</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>各階高を2,910m以上確保</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>植栽等による良好な景観形成</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>潜熱回収型給湯器を採用し効率を向上させた</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水型の住設機器を使用</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>敷地内に駐車施設、駐輪施設を適切に確保</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

(仮称)西区花の木三丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.7</b>
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	1.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>2.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>2.7</b>
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

## 結果

### 1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



### 2. 自然共生

評価点 = 2.3



### 3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。